

令和4年度

事業報告書

自：令和 4年 4月 1日

至：令和 5年 3月 31日

愛知県清須市春日新町9-5番地
社会福祉法人西春日井福社会
理事長 今村 達雄

事業運営

1 入所状況（定員80名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 78.8名 | （前年度 79.0名） |
| (2) 稼働率 | 98.5% | （前年度 98.8%） |
| (3) 平均介護度 | 4.08 | （前年度 4.08） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 行事関係 | 10回 | （音楽療法、餅つき、花火大会等） |
| (2) 外出支援 | 0回 | |
| (3) 食事関係 | 22回 | （バイキング、ゴールデンランチ等） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 外部研修 | 24回 | 延べ人数35名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | （事故防止、感染予防、腰痛予防等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|------------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 126回 | （業務改善会議、医療的ケア安全会議、生活支援委員会等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 10回 | （新型コロナウイルス会議、インフルエンザ会議、疥癬会議） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 入浴介助の方法や整容に関する業務の見直しを行い、業務の効率化を図ることができました。また、排せつ関連物品の使用量削減のため、使い捨ておしぼりのリサイクル等を行いコスト削減に努めました。(1-(1))
- (2) 居宅ケアマネジャーや医療機関と連携し、安定した入所者の確保ができました。また、在宅生活困難者や重度の入所者を積極的に受け入れることで、円滑な入退所ができ、収入基盤の確保に取り組みました。(1-(3))
- (3) サービス担当者会議では、入所者本人や家族のニーズを把握し、多職種が協働し入所者の個別性に配慮したケアプランを作成することができました。また、コロナ禍により外出機会が減少したため、施設内でできる行事を積極的に開催することでその人らしい尊厳に配慮した暮らしの支援に努めました。(2-(1))
- (4) 委員会を定期的で開催し、事故の再発防止や検証を行い、認知症の入所者の安全に配慮した介護サービスの提供に努めました。また、褥瘡予防について、入所者個々で評価することでリスクの高い入所者に対して、良質かつ安心な個別ケアの実施に取り組むことができました。(2-(3))
- (5) 介護福祉士養成校の実習生に対し、学生の力量や個性を尊重した指導、助言を行いました。また、実習生に対し行事ボランティアの声かけを行うことで、実習後も交流が継続されるような関係づくりに努めました。(3-(1))
- (6) アセッサーの評価をもとに対象職員の業務上の課題を具体化し、職員が改善に向け取り組みやすい体制づくりを行いました。また、アセッサー間で定期的に進捗状況を報告し指導内容を共有することで、統一した指導に努めました。(4-(1))
- (7) 主任会議では、職員からの業務に関する相談を契機に、全体の業務改善案へつなげることができました。一般職も業務改善案の検討に参加することで、職員自身がやりがいを感じられる取り組みとなるよう努めました。(4-(3))
- (8) 各フロアの接遇目標に対し毎月各職員が進捗報告と振り返りを行い、接遇の向上を図りました。必要に応じた個別指導では、職員自身が改善策を考えることで、自発性を尊重した人材育成に取り組みました。(5-(3)ウ)
- (9) 悩みを抱える職員に傾聴や助言を行いモチベーションの維持向上を図るとともに、役職者間で情報共有し迅速な対応に努めました。また、新型コロナウイルス感染中は職員の心身の状態を特に気かけ、ストレスや不安の軽減につながるコミュニケーションを意識しました。(5-(3)キ)

事業運営

1 利用状況（定員20名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 19.0名 | （前年度 19.6名） |
| (2) 稼働率 | 94.9% | （前年度 97.8%） |
| (3) 平均介護度 | 3.12 | （前年度 2.94） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 行事関係 | 10回 | （音楽療法、餅つき、花火大会等） |
| (2) 外出支援 | 0回 | |
| (3) 食事関係 | 22回 | （バイキング、ゴールデンランチ等） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 外部研修 | 24回 | 延べ人数35名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | （事故防止、感染予防、腰痛予防等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-------------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 126回 | （業務改善会議、医療的ケア安全会議、生活支援委員会等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 10回 | （新型コロナウイルス会議、インフルエンザ会議、疥癬会議等） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 入浴介助の方法や整容に関する業務の見直しを行い、業務の効率化を図ることができました。また、排せつ関連物品の使用量削減のため、使い捨ておしぼりのリサイクル等を行いコスト削減に努めました。(1-(1))
- (2) 短期入所の利用者が新型コロナウイルス陽性になり、短期入所の受け入れを中止したことで、利用者数の減少が一時的にみられました。その後居宅ケアマネジャーや医療機関と連携し、安定した利用者の確保ができました。また、在宅生活困難者や重度の利用者を積極的に受け入れることで、円滑な利用ができ、収入基盤の確保に取り組みました。(1-(3))
- (3) サービス担当者会議では、利用者本人や家族のニーズを把握し、多職種が協働し利用者の個別性に配慮したケアプランを作成することができました。また、施設内でできる行事を積極的に開催することでその人らしい尊厳に配慮した暮らしの支援に努めました。(2-(1))
- (4) 委員会を定期的で開催し、事故の再発防止や検証を行い、認知症の利用者の安全に配慮した介護サービスの提供に努めました。また、褥瘡予防について、利用者個々で評価することでリスクの高い利用者に対して、良質かつ安心な個別ケアの実施に取り組むことができました。(2-(3))
- (5) 介護福祉士養成校の実習生に対し、学生の力量や個性を尊重した指導、助言を行いました。また、実習生に対し行事ボランティアの声かけを行うことで、実習後も交流が継続されるような関係づくりに努めました。(3-(1))
- (6) アセッサーの評価をもとに対象職員の業務上の課題を具体化し、職員が改善に向け取り組みやすい体制づくりを行いました。また、アセッサー間で定期的に進捗状況を報告し指導内容を共有することで、統一した指導に努めました。(4-(1))
- (7) 主任会議では、職員からの業務に関する相談を契機に、全体の業務改善案へつなげることができました。一般職も業務改善案の検討に参加することで、職員自身がやりがいを感じられる取り組みとなるよう努めました。(4-(3))
- (8) 各フロアの接遇目標に対し毎月各職員が進捗報告と振り返りを行い、接遇の向上を図りました。必要に応じた個別指導では、職員自身が改善策を考えることで、自発性を尊重した人材育成に取り組みました。(5-(3)ウ)
- (9) 悩みを抱える職員に傾聴や助言を行いモチベーションの維持向上を図るとともに、役職者間で情報共有し迅速な対応に努めました。また、新型コロナウイルス感染中は職員の心身の状態を特に気かけ、ストレスや不安の軽減につながるコミュニケーションを意識しました。(5-(3)キ)

事業運営

- 1 利用状況（定員30名、通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 26.6名（前年度 25.0名）
 - (2) 稼働率 88.8%（前年度 83.4%）
 - (3) 平均介護度 2.47（前年度 2.32）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 10回（夏祭り、法人合同イベント、クリスマス会等）
 - (2) 外出支援 1回（雲台寺花祭り）
 - (3) 食事関係 29回（バイキング、グルメ祭り、ゴールデンランチ）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 0回
 - (2) 内部研修 12回（事故防止、身体拘束、感染予防）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 90回（デイ会議、事故防止委員会、業務改善委員会）
 - (2) 臨時会議・委員会 2回（新型コロナに関する緊急会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 入浴介助の方法や整容に関する業務の見直しを行い、業務の効率化を図ることができました。また、排せつ関連物品の使用量削減のため、使い捨ておしぼりのリサイクル等を行いコスト削減に努めました。(1-(1))
- (2) 利用者のニーズを家族、ケアマネジャーに確認を行い、希望に沿う安心したサービス提供を実践することで、稼働率向上を図ることができました。(1-(3))
- (3) 利用者一人ひとりが自身の意思でレクリエーションを選択し、参加することで意欲や活気を持つことができ、身体機能の維持、認知症の周辺症状の悪化や予防につなげることができました。(2-(1))
- (4) 利用者の自立支援及び重度化防止を図るため、機能訓練や日常生活活動動作訓練を行うことで、在宅生活を継続することができました。(2-(3))
- (5) 保険外サービスとして移動理美容を行い、理美容店に行くことが困難な利用者に対し、サービスを提供することができました。(3-(1))
- (6) 重度の利用者や困難事例を積極的に受け入れ、在宅生活の継続、また家族の介護負担軽減を図る役割を果たすことができました。(3-(2))
- (7) 役職者が中心となり、認知症の周辺症状がある利用者への対応方法の勉強会を行いました。正しい介護技術の習得や知識の向上を図り、質の高い福祉サービスを提供することができました。(4-(1))
- (8) 選択レクリエーションを通じ、グループ内で目標をたて、計画的に実行することで職員一人ひとりが役割を持ち、能力が発揮でき、やりがいを持つ環境をつくることができました。(4-(3))
- (9) 感染予防対策を行っていましたが、集団感染をもたらすこととなり、今までの感染予防対策を再度見直しながら、感染予防対策の徹底を行い再発防止に努めました。(5-(1))
- (10) 寝たきり、拘縮の強い利用者の介助方法の勉強会を行いました。検討した結果、統一した介助技術を共有することができ利用者、職員の負担軽減につなげることができました。(5-(3)ア)
- (11) 法人理念と基本方針にもとづき、デイサービス独自のスローガンを掲げ、職員のモチベーションアップにつなげることができました。(5-(3)オ)

事業運営

1 入所状況（定員80名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 78.7名 | (前年度 78.8名) |
| (2) 稼働率 | 98.4% | (前年度 98.6%) |
| (3) 平均介護度 | 4.02 | (前年度 4.07) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 行事関係 | 5回 | (敬老会、クリスマス会、節分) |
| (2) 外出支援 | 0回 | |
| (3) 食事関係 | 12回 | (昼食バイキング、敬老祝い膳、おせち料理) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 30回 | 延べ人数52名 |
| (2) 内部研修 | 15回 | (感染シミュレーション、虐待防止、身体拘束廃止) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 174回 | (運営連絡、事故防止、虐待防止) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 13回 | (感染症予防、介護事故ケース検討) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 業務の効率化のため、業務内に無駄となる内容はないかモニタリングと実践を繰り返し、生産性の向上につなげました。(1-(1))
- (2) 安定した収入基盤によるサービスの実現のため、入院者において長期間が見込まれる場合の適切な退所判断や、状態に合った要介護区分の変更申請を適宜行いました。また、各職員が節電、節約の意識を持ち、物品やエネルギーコストの削減につなげました。(1-(3))
- (3) 良質な福祉サービスの提供のため、計画どおりカンファレンスを開催し、多職種協働によりケアプランを作成しました。また、コロナ禍でも入所者が家族との交流を保つことができるようオンラインでの面会を推進しました。(2-(1))
- (4) 介護技術標準化リストにもとづき、教育することにより介護職員の業務標準化を図り、良質な介護サービスの提供につなげました。(2-(3))
- (5) 地域における公益的な取り組みとして、北名古屋市地域包括支援センターと協働で家族介護者の集いを開催しました。介護方法に関する相談や介護ストレスの傾聴等により、地域福祉活動の一翼を担いました。(3-(1))
- (6) 各種会議、委員会の場で現状の業務に関する課題や問題点を取り上げ、適宜マニュアルや方法を再構築しました。(4-(1))
- (7) 職場環境の保全のため、施設内プロジェクト委員会を新たに創設し、各職員の提案や意見を施設運営に反映する仕組みを構築することにより、風通しの良い職場づくりにつなげました。(4-(3))
- (8) 新型コロナウイルス感染者が発生した場合に備え、シミュレーション訓練の実施や感染防護用品を適正量備えました。実際に発生した際には、各職員が慌てることなく業務を遂行し、事業を継続できました。(5-(1))
- (9) 技能実習計画にもとづき、技能実習生が安心して学ぶことができるよう、実習日誌を活用する等、指導方法を工夫することで計画どおり育成することができました。(5-(2))
- (10) 特色ある施設運営を地域に広めるため、行事食や施設内のイベント等、各催事をフェイスブックや動画配信を通じて地域に発信しました。(5-(3)り)
- (11) 施設全体の接遇力向上のため、直接処遇職員における介護の場面だけでなく、事務職員の窓口対応方法の改善やホールの整理整頓等、来訪者に対しおもてなしの精神をもって対応しました。(5-(3)わ)

事業運営

1 利用状況（定員20名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 16.7名 | （前年度 18.8名） |
| (2) 稼働率 | 83.4% | （前年度 93.8%） |
| (3) 平均介護度 | 2.93 | （前年度 2.88） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 行事関係 | 5回 | （敬老会、クリスマス会、節分） |
| (2) 外出支援 | 0回 | |
| (3) 食事関係 | 12回 | （昼食バイキング、敬老祝い膳、おせち料理） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 30回 | 延べ人数52名 |
| (2) 内部研修 | 15回 | （感染シミュレーション、虐待防止、身体拘束廃止） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 174回 | （運営連絡、事故防止、虐待防止） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 13回 | （感染症予防、介護事故ケース検討） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 業務の効率化のため、業務内に無駄となる内容はないかモニタリングと実践を繰り返し、生産性の向上につなげました。(1-(1))
- (2) 医療依存度の高い重度の利用者を積極的に受け入れました。また、各職員が節電、節約の意識を持ち、物品やエネルギーコストの削減につなげました。(1-(3))
- (3) 利用時における意向について、本人、家族、担当ケアマネジャーと協働で短期入所介護計画を作成することにより、利用者本位のサービス提供につなげました。(2-(1))
- (4) 介護技術標準化リストにもとづき、教育することにより介護職員の業務標準化を図り、良質な介護サービスの提供につなげました。(2-(3))
- (5) 地域における公益的な取り組みとして、北名古屋市地域包括支援センターと協働で家族介護者の集いを開催しました。介護方法に関する相談や介護ストレスの傾聴等により、地域福祉活動の一翼を担いました。(3-(1))
- (6) 各種会議、委員会の場で現状の業務に関する課題や問題点を取り上げ、適宜マニュアルや方法を再構築しました。(4-(1))
- (7) 職場環境の保全のため、施設内プロジェクト委員会を新たに創設し、各職員の提案や意見を施設運営に反映する仕組みを構築することにより、風通しの良い職場づくりにつなげました。(4-(3))
- (8) 新型コロナウイルス感染者が発生した場合に備え、シミュレーション訓練の実施や感染防護用品を適正量備えました。実際に発生した際には、各職員が慌てることなく業務を遂行し、事業を継続できました。(5-(1))
- (9) 技能実習計画にもとづき、技能実習生が安心して学ぶことができるよう、実習日誌を活用する等、指導方法を工夫することで計画どおり育成することができました。(5-(2))
- (10) 特色ある施設運営を地域に広めるため、行事食や施設内のイベント等、各催事をフェイスブックや動画配信を通じて地域に発信しました。(5-(3)リ)
- (11) 施設全体の接遇力向上のため、直接処遇職員における介護の場面だけでなく、事務職員の窓口対応方法の改善やホールの整理整頓等、来訪者に対しておもてなしの精神をもって対応しました。(5-(3)ウ)

事業運営

- 1 利用状況（定員30名、通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 28.8名（前年度 28.6名）
 - (2) 稼働率 95.9%（前年度 95.4%）
 - (3) 平均介護度 2.04（前年度 2.17）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 16回（秋祭り、クリスマス会、調理実演会）
 - (2) 外出支援 0回
 - (3) 食事関係 17回（昼食バイキング、敬老祝い膳、おせち料理）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 6回 延べ人数6名
 - (2) 内部研修 15回（感染シミュレーション、事故防止、ハラスメント）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 60回（感染症予防、事故防止、虐待防止）
 - (2) 臨時会議・委員会 11回（新型コロナウイルス感染症対策）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) デイサービス会議を毎月開催し、業務内容やサービス内容について、業務の効率化を観点に話し合いを行いました。会議内では全職員に意見を求めることで、仕事に対する意欲向上をねらいました。(1-(1))
- (2) 安定した収入基盤によるサービスの実現のため、営業活動方法を工夫しました。レクリエーション等、日々の様子を紹介する際には動画を用いてケアマネジャーに伝えることで、よりイメージがしやすく、その結果、集客につながっています。また、各職員が節電、節約の意識を持ち、物品やエネルギーコストの削減につなげました。(1-(3))
- (3) カルチャー教室や、音楽療法、回想療法、園芸活動等、多種多様なレクリエーションプログラムを備え、各利用者の自己決定や自己選択を促すことにより、利用者の活動意欲向上につなげました。(2-(1))
- (4) 適切かつ良質なサービスの提供では、要支援者から中重度者までの利用者個々に合った機能訓練プログラムを実施し、利用者が住み慣れた生活環境での暮らしを継続できるよう支援しました。(2-(3))
- (5) 地域における公益的な取り組みとして、北名古屋地域包括支援センターと協働で家族介護者の集いを開催しました。介護方法に関する相談や介護ストレスの傾聴等により、地域福祉活動の一翼を担いました。(3-(1))
- (6) 各種会議、委員会の場で現状の業務に関する課題や問題点を取り上げ、適宜マニュアルや方法を再構築しました。(4-(1))
- (7) 職場環境の保全のため、施設内プロジェクト委員会を新たに創設し、各職員の提案や意見を施設運営に反映する仕組みを構築することにより、風通しの良い職場づくりにつなげました。(4-(3))
- (8) 新型コロナウイルス感染者が発生した場合に備え、シミュレーション訓練の実施や感染防護用品を適正量備えました。実際に発生した際には、各職員が慌てることなく業務を遂行し、事業を継続できました。(5-(1))
- (9) 特色ある施設運営を地域に広めるため、行事食や施設内のイベント等、各催事をフェイスブックや動画配信を通じて地域に発信しました。(5-(3)リ)
- (10) 施設全体の接遇力向上のため、直接処遇職員における介護の場面だけでなく、事務職員の窓口対応方法の改善やホールの整理整頓等、来訪者に対しおもてなしの精神をもって対応しました。(5-(3)ハ)

事業運営

- 1 入所状況（定員30名、通年営業）
 - (1) 平均入所者数 29.1名（前年度 27.6名）
 - (2) 稼働率 97.1%（前年度 92.0%）
 - (3) 平均要介護者数 13.4名（前年度 13.5名）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 5回（敬老会、餅つき大会、節分）
 - (2) 外出支援 30回（花見、ショッピング、外食ツアー）
 - (3) 食事関係 19回（朝食モーニング、昼食バイキング、敬老祝い膳）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 1回 延べ人数1名
 - (2) 内部研修 15回（感染シミュレーション、ハラスメント、防災訓練）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 96回（感染症予防、事故防止、虐待防止）
 - (2) 臨時会議・委員会 11回（新型コロナウイルス感染症対策）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) ケアハウス会議を毎月開催し、業務内容やサービス内容について、業務の効率化を観点に話し合いを行いました。会議内では全職員に意見を求めることで、仕事に対する意欲向上を図りました。(1-(1))
- (2) 施設見学者の対応の際には、その方がケアハウスでどのような生活が送れるかを具体的に説明し、入所後のイメージをもってもらうことにより待機者確保に努めました。また、次期入所候補者については、あらかじめ複数名を選考しておくことにより円滑な入退所につなげました。(1-(3))
- (3) コミュニケーションを活発にし、相談しやすい雰囲気づくりに努め、生活の不安等に対し、適宜助言を行いました。また、居宅介護支援事業所と連携し、必要に応じて福祉サービスの導入を提案し、安心安全な生活支援につなげました。(2-(1))
- (4) 日常生活の様子をよく観察し、生活習慣の改善や支援方法について適宜会議を行い生活レベルの向上に努めました。(2-(3))
- (5) 地域における公益的な取り組みとして、北名古屋地域包括支援センターと協働で家族介護者の集いを開催しました。介護方法に関する相談や介護ストレスの傾聴等により、地域福祉活動の一翼を担いました。(3-(1))
- (6) 入所者同士の交流する機会の減少や、閉じこもりがちな入所者支援の一環として、認知症予防を目的とした脳内トレーニングブースや喫茶コーナーを集会室に設置し、生活の楽しみづくりにつなげました。(4-(1))
- (7) 職場環境の保全のため、施設内プロジェクト委員会を新たに創設し、各職員の提案や意見を施設運営に反映する仕組みを構築することにより、風通しの良い職場づくりにつなげました。(4-(3))
- (8) 新型コロナウイルス感染者が発生した場合に備え、シミュレーション訓練の実施や感染防護用品を適量備えました。実際に発生した際には、各職員が慌てることなく業務を遂行し、事業を継続できました。(5-(1))
- (9) 特色ある施設運営を地域に広めるため、行事食や施設内のイベント等、各催事をフェイスブックや動画配信を通じて地域に発信しました。(5-(3)り)
- (10) 施設全体の接遇力向上のため、直接処遇職員における介護の場面だけでなく、事務職員の窓口対応方法の改善やホールの整理整頓等、来訪者に対しおもてなしの精神をもって対応しました。(5-(3)わ)

事業運営

- 1 入所状況（定員100名、通年営業）
 - (1) 平均入所者数 96.6名（前年度 97.8名）
 - (2) 稼働率 96.6%（前年度 97.8%）
 - (3) 平均介護度 3.94（前年度 3.97）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 8回（秋祭り、クリスマス会、忘年会）
 - (2) 外出支援 5回（コンビニツアー、貝塚公園、清洲城）
 - (3) 食事関係 16回（季節御膳、季節のおやつ作り、実演調理）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 3回 延べ人数5名
 - (2) 内部研修 12回（事故防止、感染症予防、虐待防止）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 92回（調整会議、主任副主任会議、チーム会議）
 - (2) 臨時会議・委員会 3回（新型コロナウイルス対策会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) おしぼりタオルからウェットティッシュへの変更や衣類の消毒方法の見直し等を行ったことで、業務時間にゆとりを持つことができるようになり、入所者一人ひとりに寄り添った介護に努めることができました。(1-(1))
- (2) 施設内での生活でも四季の移り変わりが感じられるよう、創作レクリエーションではその季節にちなんだ塗り絵や折り紙を使用したカレンダー等の作成をしていただきました。また、季節にちなんだクリスマス会や忘年会などを開催することで、四季を感じていただくだけでなく生活のメリハリもつけることができました。(1-(3))
- (3) 日々のコミュニケーションを通して本人のニーズや課題を把握するため、居室担当の介護職員に介護計画書を作成してもらうことで、より個々のニーズにもとづいたケアプランの作成に努めることができました。(2-(1))
- (4) 作成したケアプランにもとづいたサービスの提供に努めてもらうため、作成後のプランを個人ファイルに綴るだけでなく、チームごとのファイルにも綴ることで目を通す機会を増やし、全介護職員へケアプランの周知に努めることができました。(2-(3))
- (5) 市役所等から同居の家族からの虐待ケースの依頼があり、緊急に対応が必要と判断した場合には、多職種連携して受け入れ態勢をすぐに確保し対応することで地域の福祉施設としての役割を果たすことができました。(3-(1))
- (6) 標準化の一つとして、毎食時や水分補給時に提供しているお茶の冷温選択や好きな時間にコーヒーが飲めるような体制を確保し、入所者の希望に応じたサービスを提供できるようにしました。(4-(1))
- (7) 介護の年間目標をもとに、一週間ごとに職員と入所者個々の目標を作成し、日々、その目標に向かって業務等を取り組んでいくことで、職員一人ひとりが目標達成度合いを確認し、達成感を感じながら仕事のやりがいにつなげることができました。(4-(3))
- (8) 新型コロナウイルスクラスター発生後に、随時、会議で反省点や改善点についての議論を行うことで、次のクラスター発生時の対策に生かすことができました。(5-(1))
- (9) 半期ごとの自己評価の際に身だしなみチェックリストを全職員に配布し再確認してもらうことで、忘れかけていた接遇や身だしなみを見直すことができました。(5-(3)カ)

事業運営

- 1 利用状況（定員10名、通年営業）
 - (1) 平均利用者数 8.6名（前年度 9.5名）
 - (2) 稼働率 85.8%（前年度 95.4%）
 - (3) 平均介護度 2.65（前年度 2.58）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 8回（秋祭り、クリスマス会、忘年会）
 - (2) 外出支援 5回（コンビニツアー、貝塚公園、清洲城）
 - (3) 食事関係 16回（季節御膳、季節のおやつ作り、実演調理）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 3回 延べ人数5名
 - (2) 内部研修 12回（事故防止、感染症予防、虐待防止）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 92回（調整会議、主任副主任会議、チーム会議）
 - (2) 臨時会議・委員会 3回（新型コロナウイルス対策会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) おしぼりタオルからウェットティッシュへの変更や衣類の消毒方法の見直し等を行ったことで、業務時間にゆとりを持つことができるようになり、利用者一人ひとりに寄り添った介護に努めることができました。(1-(1))
- (2) 医療機関や居宅介護支援事業所等に足を運び新規開拓に取り組むことで、新規利用者の確保に努めることができました。また、利用後の苦情につながりやすい忘れ物等の発生を減少させるため、タブレット端末を使用した荷物チェックに変更しリピーター確保に努めました。(1-(3))
- (3) 日々のコミュニケーションを通して本人のニーズや課題を把握するため、居室担当の介護職員に介護計画書を作成してもらうことで、より個々のニーズにもとづいたケアプランの作成に努めることができました。(2-(1))
- (4) 利用者個々の能力に応じて、部屋の掃除や手すりの消毒等の日常活動を行っていただくことで、身体機能の維持、向上に努めるだけでなく、生活のメリハリをつけることもできました。(2-(2))
- (5) アセスメント時には、介護と看護の職員にも同席してもらい情報収集をすることで、受け入れ前に使用ベッドや離床センサー等の福祉用具の選定を行い、転倒、転落等の事故防止に努めることができました。(2-(3))
- (6) 市役所等から同居の家族からの虐待ケースの依頼を受けて、緊急に対応が必要と判断した場合には、多職種連携して受け入れ態勢をすぐに確保し対応することで地域の福祉施設としての役割を果たすことができました。(3-(1))
- (7) 標準化の一つとして、毎食時や水分補給時に提供しているお茶の冷温選択や好きな時間にコーヒーが飲めるような体制を確保し、利用者の希望に応じたサービスを提供できるようにしました。(4-(1))
- (8) 介護の年間目標をもとに、一週間ごとに職員と利用者個々の目標を作成し、日々、その目標に向かって業務に取り組んでいくことで、職員一人ひとりが目標達成度合いを確認し、達成感を感じながら仕事のやりがいにつなげることができました。(4-(3))
- (9) 新型コロナウイルスクラスター発生後に、随時、会議で反省点や改善点についての議論を行うことで、次のクラスター発生時の対策に生かすことができました。(5-(1))
- (10) 定期的に行われるサービス担当者会議に積極的に参加し、他事業所の方々と意見交換することで、利用者のニーズを再確認し、自立に向けたサービスにつなげることができました。(5-(3)ウ)
- (11) 毎月開催しているチーム会議内にて、利用者対応で良かったところ等を職員一人ひとりに発表してもらうことで、サービス提供の再確認ができ質の向上につなげることができました。(5-(3)キ)

事業運営

- 1 利用状況（定員30名、通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 26.3名（前年度 27.7名）
 - (2) 稼働率 87.7%（前年度 92.4%）
 - (3) 平均介護度 2.10（前年度 1.95）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 32回（テラス散歩、夏祭り、はるひの学校）
 - (2) 外出支援 0回
 - (3) 食事関係 29回（満腹御膳、料理実演、季節御膳）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 0回
 - (2) 内部研修 11回（接遇、アンガーマネジメント、チームビルディング）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 37回（デイサービス会議、調整会議、事故防止委員会）
 - (2) 臨時会議・委員会 0回

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 職員間で意見を出し合いながら業務内容の見直しを随時行い、業務の効率性が向上するよう努めることができました。(1-(1))
- (2) 利用者や家族との関わりの中からニーズを把握し、そのニーズに柔軟に対応できるよう職員間で情報を共有し合うことができました。また、安心して利用していただけるよう、関係機関と連絡を密に行うよう努め、安定した施設運営を目指すことができました。(1-(3))
- (3) 利用者の趣味や意向の把握に努め、自主性を持って取り組めるよう選択できる各種のレクリエーションを企画することができました。(2-(1))
- (4) 在宅生活が継続できるようニーズや身体状況に応じた支援計画の作成に努めました。また、ケアの統一が図られるようチェック表の作成や更新を毎日行い、有効に活用することができました。(2-(3))
- (5) 関係機関と連携、協働し、信頼や理解が深まるようきよす事業者会に参画し、情報共有に努めることができました。(3-(1))
- (6) 年間の研修計画に沿ってデイサービス会議時に研修を行い、職員の資質向上に向けた働きかけをすることができました。また、より良い介助方法を話し合い、腰痛予防に努めることができました。(4-(1))
- (7) 会議や申し送りノートを活用し、各職種の役割を確認し合う機会を設け、それぞれの専門性の理解を深めることができました。職員の得意を活かせる部活動を提案し、部活動を通して利用者の楽しみある活動につなげることができました。また、接遇の研修を開き、質の高いサービスを目指すことができました。(4-(3))
- (8) 感染症等が発生した場合の対応をマニュアル化し、新型コロナウイルス陽性者や濃厚接触者が生じた際は関係機関に迅速に連絡を取ることができ、利用者の安心、安全な生活が維持できるよう努めることができました。感染防護用品等を揃え、有事に備えることもできました。(5-(1))
- (9) 年間スローガンを掲げたことで、職員や利用者に分かり易く方向性を示すことができ、スローガンに沿った活動を利用者に提供することができました。また、季節に合わせた独自のイベントを企画することができ、活動の活性化につなげることもできました。(5-(3)ウ)

事業運営

- 1 利用状況（定員9名、通年営業）
 - (1) 平均利用者数 8.9名（前年度 9.0名）
 - (2) 稼働率 99.2%（前年度 100.0%）
 - (3) 平均介護度 1.70（前年度 1.90）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 35回（ミニ夏祭り、縁日、野菜の収穫祭）
 - (2) 外出支援 3回（コンビニ外出、朝日貝塚公園、春日夢の森花見）
 - (3) 食事関係 16回（ウナギの日、重箱ランチ、バイキング）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 2回 延べ人数2名
 - (2) 内部研修 12回（事故防止、認知症ケア、虐待予防）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 39回（調整会議、ホーム会議、事故防止委員会）
 - (2) 臨時会議・委員会 2回（緊急感染会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 新しいソフトの導入と同時に、記録方法を見直し、簡潔かつ分かりやすい方法で入力することで記録時間を短縮することができました。その結果、利用者と関わる時間が増えそれぞれの声に耳を傾けることで、より良いサービスの提供につなげることができました。(1-(1))
- (2) 入院者が出た際は、病院との連携を図り、状況をしっかりと把握し退院後の状況を確認できたことにより、早めの退院につなげることができました。また、入退所における他事業所との連携が図られたことで空床はありませんでした。(1-(3))
- (3) 新しく利用された方々が安心できるよう、たくさん声掛けをすることで、やれること、やりたいことをしっかりと把握した支援ができました。また、利用者の意見を取り入れた食事提供やレクリエーションを行い、笑顔が多い一年になりました。(2-(1))
- (4) 施設内研修で知った情報を、ホーム会議で説明したり、ホーム独自の研修を実施したことにより、新たな情報、知識を得ることができました。また、外部研修にも参加し、他の事業所での活動などを知り、職員に伝達することで、職員が考えるきっかけを作ることができました。(2-(3))
- (5) 運営推進会議で、地域の方々や市役所、地域包括支援センターとの連携を図り、外部評価を実施するとともに、出された意見をもとに、運営に反映するよう努めました。(3-(1))
- (6) 業務方法について統一を図るため、ホーム会議内で話し合いを行い、職員間で共有を図りました。(4-(1))
- (7) 職員との面談をこまめに実施し、日常的に仕事上で抱えている心身の問題を聴くことができ、一つひとつ解決できるよう努めました。(4-(3))
- (8) 毎月の会議内で、感染症発症時の対応について周知を行ってきました。職員が感染症を発症した際には、利用者の体調不良の早期発見に努め、手洗い、消毒を徹底するよう促し、利用者への感染を防ぐことにつながりました。(5-(1))
- (9) 身だしなみチェックリストを活用したミニ研修を会議内で実施し、言葉遣いや対応について職員に周知しました。利用者、家族への接遇対応についてそれぞれが意識し対応することができました。(5-(3)オ)

事業運営

- 1 入所状況（定員30名、通年営業）
 - (1) 平均入所者数 28.4名（前年度 28.4名）
 - (2) 稼働率 94.6%（前年度 94.7%）
 - (3) 平均要介護者数 8.6名（前年度 10.5名）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 68回（干し柿、クリスマス会、餅つき等）
 - (2) 外出支援 33回（病院送迎、ショッピング、季節外出等）
 - (3) 食事関係 41回（バイキング、モーニング、季節御膳等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 1回 延べ人数1名
 - (2) 内部研修 0回
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 59回（事故防止委員会、衛生委員会、けあはうす会議）
 - (2) 臨時会議・委員会 0回

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 介護員室にパソコンを導入し、報告書、個人別ケース記録等の様式を統一し、データとして管理することで、業務の効率化を図ることができました。(1-(1))
- (2) 居室を見学できない入所希望者にあらかじめ撮った居室内の動画を観てもらうことによって、施設の様子を感じてもらうことができました。(1-(3))
- (3) 自立した生活を送られるよう、認知機能や身体機能の低下が感じられる入所者のニーズを把握し、家族、居宅介護支援事業所と連携を取り、要支援・要介護認定や区分変更の申請支援を行い、各種介護サービスの利用につなげました。(2-(1))
- (4) 自粛生活を明るく、楽しく生活できるよう随時、レクリエーションや各種クラブ活動を開催するとともに生活に潤いを感じられるよう、出前の日やネットスーパーでの買物を実施しました。(2-(3))
- (5) 在宅では生活困難な虐待事例の入所者を地域包括支援センターと連携し受け入れ、介護サービス事業者、家族と調整を行い、けあはうすでの生活の安定を図りました。(3-(1))
- (6) 各種記録の様式、方法を統一することで、相談員、介護員のそれぞれの業務内容を把握することができ、お互いにそれぞれの業務のスムーズな実践が可能になりました。(4-(1))
- (7) 入所者の病院受診日程や状況、服薬情報、認知や身体機能の状態についての職員間での共有と介護サービス事業者との情報交換が、疾患等の早期発見、早期対応へつながり、職員間で成果を実感することができました。(4-(3))
- (8) 食堂での感染疑い者の発見を想定した訓練を実施し、食堂からの入所者の退避方法、その後の対応等を確認しました。新型コロナウイルス感染対策については、随時、マニュアルを見直し、職員罹患の際も適切な対応が取れたため、入所者や職員への感染はありませんでした。(5-(1))
- (9) 入所者の心身状態、家庭環境を鑑みながら、病院受診の付添い、支払いや買い物の代行等を家族や介護サービス事業者に代わり行いました。(5-(3)リ)
- (10) 各業務の見直しによる効率化や、職員間での情報共有、連絡方法の明確化等により、一人勤務時の不安解消や気持ちに余裕が持てる業務体制の構築を図りました。(5-(3)キ)

事業運営

1 入所状況（定員80名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 77.9名 | （前年度 78.7名） |
| (2) 稼働率 | 97.3% | （前年度 98.4%） |
| (3) 平均介護度 | 4.09 | （前年度 4.04） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 行事関係 | 5回 | （餅つき、秋祭り、豆まき） |
| (2) 外出支援 | 0回 | |
| (3) 食事関係 | 16回 | （バイキング、おせち料理、敬老会） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|----------------------------|
| (1) 外部研修 | 5回 | 延べ人数6名 |
| (2) 内部研修 | 13回 | （令和5年度事業方針説明会、感染症防止、防災教育等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|----------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 143回 | （調整会議、感染・褥瘡防止委員会、虐待防止委員会等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 8回 | （臨時感染対策会議） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 職員研修を充実させるため、看取り介護の施設内研修において、外部講師によるアドバンス・ケア・プランニングを中心とした講義を開催しました。講義では、将来的に入所者が看取り介護になった場合に備え、支援方法を準備しておく重要性を理解できました。(1-(1))
- (2) 入所者の状態に応じた適正な介護報酬を得るため、一人ひとりの入所者の心身状況の把握に努めながら、認知症やADLが低下したと判断した時は、適宜区分変更を行い、介護度の見直しをしました。(1-(3))
- (3) 虐待防止の推進を目的として、虐待防止委員会の発足、虐待防止研修の開催、虐待マニュアル内のセルフチェック表配布等、意欲的に多くの取り組みを実施しました。(2-(1))
- (4) より安全に食事をするため、入所者の義歯一覧表を作成して、職員が口腔内状況を把握できるようにしました。また、褥瘡対策に関するスクリーニング・ケア計画書の見直しをケアカルテの導入に合わせて行い、高リスク者の褥瘡対策を行いました。(2-(3))
- (5) コロナ禍の中でも継続して地域住民や関係団体と連携を図り、廻間町内会や日赤奉仕団ボランティアに施設内の草刈り活動を手伝ってもらいました。(3-(1))
- (6) 介護業務標準化について、施設目標を介護役職者で設定して、実施するように働きかけました。また、外部講師による介護技術標準化研修にて、介護役職者が施設目標を現状に合わせて再調整し直すことによって、質の高い指導の継続につなげることができました。(4-(1))
- (7) チューター職員をはじめとして、副主任やユニットリーダー等も積極的に新任職員に関わることによって、業務に関する悩みの早期発見及び解決につなげました。その結果として、新任職員の退職者を出さずに次年度へと向けての職員成長に結びつけることができました。(4-(3))
- (8) 地域包括支援センターからの依頼を受けて、地域の福祉課題の1つでもある、在宅で問題を抱えた高齢者の緊急保護事案に対して、緊急入所の対応を図ることができました。(5-(3)ウ)
- (9) 事業方針説明会において、法人理念や基本方針、事業計画書等、法人が進むべき方向性や福祉職員としての心構えを再認識した上で、入所者及び家族との信頼関係の構築に努めました。(5-(3)オ)
- (10) 事故防止委員会や行事委員会等では、それぞれの職員がチームの一員となって活躍できるような体制を整えることによって、委員会が活発化するとともに職員の自己成長に結びつけることができました。(5-(3)キ)

事業運営

1 利用状況（定員20名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 17.9名 | （前年度 17.9名） |
| (2) 稼働率 | 89.3% | （前年度 89.4%） |
| (3) 平均介護度 | 2.82 | （前年度 3.10） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 行事関係 | 5回 | （餅つき、秋祭り、豆まき） |
| (2) 外出支援 | 0回 | |
| (3) 食事関係 | 16回 | （バイキング、おせち料理、敬老会） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 外部研修 | 5回 | 延べ人数6名 |
| (2) 内部研修 | 13回 | （令和5年度事業方針説明会、感染症防止、防災教育） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|----------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 143回 | （調整会議、感染・褥瘡防止委員会、虐待防止委員会等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 8回 | （臨時感染対策会議） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 職員研修を充実させるため、看取り介護の施設内研修において、外部講師によるアドバンス・ケア・プランニングを中心とした講義を開催しました。講義では、将来的に利用者が看取り介護になった場合に備え、支援方法を準備しておく重要性を理解できました。(1-(1))
- (2) 支援が困難な在宅利用者でも積極的に受け入れていくため、短期ユニットが満床時には、特養ユニットの空床を活用できるように多職種と連携を図りました。そして、併設型施設としての特徴を活かすことによって、セーフティネットの役割を果たしつつ、安定した収入が得られるように努めました。(1-(3))
- (3) 虐待防止の推進を目的として、虐待防止委員会の発足、虐待防止研修の開催、虐待マニュアル内のセルフチェック表配布等、意欲的に多くの取り組みを実施しました。(2-(1))
- (4) より安全に食事をするため、入所者の義歯一覧表を作成して、職員が口腔内状況を把握できるようにしました。また、褥瘡対策に関するスクリーニング・ケア計画書の見直しをケアカルテの導入に合わせて行い、高リスク者の褥瘡対策を行いました。(2-(3))
- (5) コロナ禍の中でも継続して地域住民や関係団体と連携を図り、廻間町内会や日赤奉仕団ボランティアに施設内の草刈り活動を手伝ってもらいました。(3-(1))
- (6) 介護業務標準化について、施設目標を介護役職者で設定して、実施するように働きかけました。また、外部講師による介護技術標準化研修にて、介護役職者が施設目標を現状に合わせて再調整し直すことによって、質の高い指導の継続につなげることができました。(4-(1))
- (7) チューター職員をはじめとして、副主任やユニットリーダー等も積極的に新任職員に関わることによって、業務に関する悩みの早期発見及び解決につなげました。その結果として、新任職員の退職者を出さずに次年度へと向けての職員成長に結びつけることができました。(4-(3))
- (8) 地域包括支援センターからの依頼を受けて、地域の福祉課題の1つでもある、在宅で問題を抱えた高齢者の緊急保護事案に対して、緊急入所の対応を図ることができました。(5-(3)ウ)
- (9) 事業方針説明会において、法人理念や基本方針、事業計画書等、法人が進むべき方向性や福祉職員としての心構えを再認識した上で、入所者及び家族との信頼関係の構築に努めました。(5-(3)オ)
- (10) 事故防止委員会や行事委員会等では、それぞれの職員がチームの一員となって活躍できるような体制を整えることによって、委員会が活発化するとともに職員の自己成長に結びつけることができました。(5-(3)キ)

事業運営

1 入所状況（定員96名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 95.0名 | （前年度 94.6名） |
| (2) 稼働率 | 98.9% | （前年度 98.6%） |
| (3) 平均介護度 | 4.01 | （前年度 3.93） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 行事関係 | 8回 | （運動会、クリスマス会、館内夏祭り等） |
| (2) 外出支援 | 3回 | （看取り期の外出支援、花見外出） |
| (3) 食事関係 | 16回 | （バイキング、松花堂弁当、土用の丑の日等） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 外部研修 | 4回 | 延べ人数6名 |
| (2) 内部研修 | 17回 | （感染予防対策、排泄褥瘡予防、事故防止虐待防止等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|--------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 112回 | （運営連絡会議、リーダー会議、感染予防委員会等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 4回 | （臨時感染対策会議、運転手会議） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性の向上を図るために、ユニット会議等で入所者の情報を共有するとともに、日常支援の内容を見直し効率よく業務が遂行できるように努めました。また、マニュアルの改善については、クラスターが発生したこともあり、感染対策マニュアルを重点的に見直すことができました。(1-(1))
- (2) 健全かつ安定した福祉サービスを継続的に提供するため、ユニット会議やカンファレンス等で入所者の状態変化に合わせた対応方法を話し合うとともに、要介護度の見直しへの情報提供を行うことにより、認定調査を実施して、適正な収益が確保することにつながることができました。(1-(3))
- (3) 新規入所時には、短期入所ユニットの職員と連携を図り、生活リズムや環境整備などの情報収集を行い、安心して過ごせるよう環境づくりに努めました。また、収集した情報をもとにカンファレンスを行い、計画を作成し、それにもとづいた良質なサービスが提供できるように努めることができました。(2-(1))
- (4) 良質かつ安心、安全な福祉サービスを提供するために、ユニット会議等で職員から意見を募り、会議で話し合いながら業務改善につなげました。(2-(3))
- (5) 入所申込者から要介護者やその家族が施設に求めるニーズをサービス契約前に把握することにより、安心、安全に利用していただけるよう、他職種連携を図り、生活支援の体制整備に努めました。また、地域住民の福祉に対する理解の促進を図るため、要請に応じて地域で開かれる講習等に参加しました。(3-(1))
- (6) 介護業務標準化として、ユニット会議にて「スキルアップ見える化リスト」を配布して全職員へ理解を求め、業務行動の統一化を進めるとともに、介護技術の向上に努めました。(4-(1))
- (7) 職員間で常にコミュニケーションをとり、職員個々の意見を尊重し、働きがいももてる風通しの良い職場作りに努めることができました。また、利用者への対応方法や、業務上の課題に対して、解決に向け情報共有を行うことにより、職員間の信頼構築に努めることができました。(4-(3))
- (8) 階層に応じた役割を理解するために、法令順守のための研修や意識づけを行うことにより、求められる人物像に近づけるように努めました。(5-(3)エ)
- (9) 委員会や会議において、多くの職員が発言しやすい環境づくりに努めました。意見を取り込み実践することで、職員のモチベーションの維持に努めました。また、感染予防対策をしっかりと行いながら、館内での夏祭りや運動会等、入所者、職員がリフレッシュできる企画を実施して、より良いケアにつなげることができました。(5-(3)キ)

事業運営

1 利用状況（定員30名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 28.0名 | (前年度 28.6名) |
| (2) 稼働率 | 93.4% | (前年度 95.4%) |
| (3) 平均介護度 | 2.76 | (前年度 2.95) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 行事関係 | 8回 | (運動会、クリスマス会、館内夏祭り等) |
| (2) 外出支援 | 3回 | (看取り期の外出支援、花見外出) |
| (3) 食事関係 | 16回 | (バイキング、松花堂弁当、土用の丑の日等) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 外部研修 | 4回 | 延べ人数6名 |
| (2) 内部研修 | 17回 | (感染予防対策、排泄褥瘡予防、事故防止虐待防止等) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|--------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 112回 | (運営連絡会議、リーダー会議、感染予防委員会等) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 4回 | (臨時感染対策会議、運転手会議) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性の向上を図るために、ユニット会議等で利用者の情報を共有するとともに、日常支援の内容を見直し効率よく業務が遂行できるように努めました。また、マニュアルの改善については、クラスターが発生したこともあり、感染対策マニュアルを重点的に見直すことができました。(1-(1))
- (2) 健全かつ安定した福祉サービスを継続的に提供するため、ユニット会議やカンファレンス等で利用者の状態変化に合わせた対応方法を話し合うとともに、居宅介護支援事業所へ要介護度の見直しへの情報提供を行うことにより、適正な収益が確保することにつながることができました。(1-(3))
- (3) 在宅生活の継続を中心にサービス提供を実施する中で、利用者、家族が安心して現在の生活が継続できる最良な形を担当者会議等で話し合い、入所に向けた長期利用を提案し、安心して生活できる適正な計画を作成して、良質なサービス提供に努めました。(2-(1))
- (4) 良質かつ安心、安全な福祉サービスを提供するために、ユニット会議等で職員から意見を募り、会議で話し合いながら業務改善につなげました。(2-(3))
- (5) 新型コロナウイルス感染症第8波においてクラスターが発生したものの終息後、関係機関への連絡を常に行うことにより、介護を必要とする在宅の要介護者を可能な限りに受け入れました。また、地域住民の福祉に対する理解の促進を図るため、要請に応じて地域で開かれる講習等に参加しました。(3-(1))
- (6) 介護業務標準化として、ユニット会議にて「スキルアップ見える化リスト」を配布して全職員へ理解を求め、業務行動の統一化を進めるとともに、介護技術の向上に努めました。(4-(1))
- (7) 職員間で常にコミュニケーションをとり、職員個々の意見を尊重し、働きがいもてる風通しの良い職場作りに努めることができました。また、利用者への対応方法や、業務上の課題に対して、解決に向け情報共有を行うことにより、職員間の信頼構築に努めることができました。(4-(3))
- (8) 階層に応じた役割を理解するために、法令順守のための研修や意識づけを行うことにより、求められる人物像に近づけるように努めました。(5-(3)エ)
- (9) 委員会や会議において、多くの職員が発言しやすい環境づくりに努めました。意見を取り込み実践することで、職員のモチベーションの維持に努めました。また、感染予防対策をしっかり行いながら、館内での夏祭りや運動会等、入所者、職員がリフレッシュできる企画を実施して、より良いケアにつなげることができました。(5-(3)キ)

事業運営

- 1 利用状況（定員30名、通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 27.9名（前年度 24.6名）
 - (2) 稼働率 93.1%（前年度 82.2%）
 - (3) 平均介護度 2.13（前年度 2.17）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 11回（法人合同イベント、平安オリンピック、お楽しみ会等）
 - (2) 外出支援 0回
 - (3) 食事関係 18回（バイキング、松花堂弁当、おせち料理等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 1回 延べ人数1名
 - (2) 内部研修 12回（排泄介護、移乗介護、入浴介護等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 72回（運営連絡会議、デイサービス会議、感染予防委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 4回（臨時感染対策会議、運転手会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性が高く、効率良く業務を行うことができるよう、1日のタイムスケジュールの見直しや記録の簡素化等、定期的に職員間で話し合いを行うことにより、業務内容の見直しを行うことができました。(1-(1))
- (2) 月初めの実績とモニタリング報告で居宅介護支援事業所を訪問するとともに、月半ばには、行事の様子等を記載したリーフレットを居宅介護支援事業所に持参して、デイサービスの特色をお伝えすることにより、計画を超える稼働、収益を得ることができました。(1-(3))
- (3) 利用者、家族と送迎時や担当者会議等で密にコミュニケーションを図り、在宅での生活状況等を把握することにより、サービス内容の幅を持たせ、利用者個々の生活に合ったサービスの提供をすることができました。(2-(1))
- (4) 利用者の状態観察をこまめに行い、食事状況、歩行状態等のADLに変化が見られた時には、職員間で情報共有を行うとともに、家族、ケアマネジャーへ報告して、利用者にあった計画変更をすることにより、良質なサービスを提供することができました。(2-(3))
- (5) 介護拒否や介護度が高く在宅介護している家族が負担と感じている利用者の受け入れを行うことにより、家族やケアマネジャーとの信頼構築に努めることができました。また、家族、地域住民に活動内容を知っていただくために、日々の利用状況や行事の様子をフェイスブック、インスタグラム、広報紙に掲載をしました。(3-(1))
- (6) 法人が目指す職員像を構築するために、デイサービス会議内での勉強会や役職者による個別の技術指導を行うこと業務の標準化を実現することができました。(4-(1))
- (7) 職員間で常にコミュニケーションをとり、職員個々の意見を尊重し、働きがいがある風通しの良い職場作りに努めることができました。また、利用者への対応方法や、業務上の課題に対して、解決に向け情報共有を行うことにより、職員間の信頼構築に努めることができました。(4-(3))
- (8) 利用者に対する接遇について定期的に職員全体で振り返りを行うことにより、利用者のニーズに寄り添ったサービスを提供することができました。また、利用者だけではなく家族への対応について職員同士で周知徹底して、サービスの本質の理解に努めることができました。(5-(3)オ)
- (9) 介護技術等に不得意なことがあった場合は職員同士で話し合い改善することにより、成長が実感でき、モチベーションを上げるような環境作りに努めることができました。また、行事やレクリエーションでは職員も活躍できるようなことを意識して考案して、実践した結果、利用者から好評をいただき、達成感を味わうことができました。(5-(3)キ)

事業運営

1 入所状況（定員100名、通年営業）

- | | | | |
|------------|-------|---------|----------|
| (1) 平均入所者数 | 84.7名 | (前年度 ー) | 令和4年6月開設 |
| (2) 稼働率 | 84.7% | (前年度 ー) | 同上 |
| (3) 平均介護度 | 3.86 | (前年度 ー) | 同上 |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|----|-------------------|
| (1) 行事関係 | 4回 | (秋祭り、ビアガーデン、花火大会) |
| (2) 外出支援 | 0回 | |
| (3) 食事関係 | 1回 | (弥生御膳) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|------------------------------|
| (1) 外部研修 | 11回 | 延べ人数27名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | (感染者発生シミュレーション、事故防止、事業方針説明会) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|--------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 163回 | (運営連絡会議、感染対策委員会、事故防止委員会) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 25回 | (緊急感染対策委員会、緊急事故検討会議) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) IT委員会を開催し、新しい介護記録システムの運用について、常日頃の疑問を職員間で共有し、一つ一つ問題解決に取り組みました。また、介護記録システムのマニュアルを作成し、職員間で共有を図ることで、記録業務の標準化に取り組みました。(1-(1))
- (2) 開所後、入所業務を推進し、安定した収入基盤の確保に努めました。稼働率は低調な結果となりましたが、多様な経費について収入の状況に合わせて、節減に努め、優先順位の高いものから執行する等、適正な収支のバランス確保に努めました。(1-(3))
- (3) 日頃からの入所者とのコミュニケーションや、面会やカンファレンスを通じて家族から聞き取った意向に沿って、入所者本位のサービス提供に努めました。また、ユニット会議等で処遇について話し合い、心身の状態に応じた細やかなサービス提供を行いました。(2-(1))
- (4) 経済的な理由でユニット型施設への入所が難しい方々には、従来型への入所を勧めました。また、従来型の特徴でもあるプライバシーに配慮した構造に合わせ個別ケアの提供を推進し、入所者の尊厳に配慮したサービス提供に努めました。(2-(1))
- (5) 定例の委員会に加えて、事故や感染について臨時で検討会を開催し迅速な対応を行うことで、安心安全な生活環境づくりに努めました。また、介護技術標準化のため、各アセッサー職員がチェックリストにもとづいて指導及び評価を行い、他職員と共有しながらチームで育成をすることで統一した教育体制を整えました。(2-(3))
- (6) 定期的に地区自治会と会合を設け、地域交流について協議を行いました。その中で、地区自治会の方を施設行事へ招き、実際に、施設の催しを見て感じていただくことで、地域との関わり方について意見を交わし、目指す地域に根差した施設運営の一助を担うことができました。(3-(1))
- (7) 施設のスローガンを全職員の意見を聞いて作成し、業務の行動規範とすることができました。また、マニュアルの見直しを行うことにより、業務の改善につなげ良質なサービスが継続的に提供できるように努めました。(4-(1))
- (8) 新任職員へはチューター職員のみならず副主任を含めたチームで丁寧にフォローを行うことで、新人指導に役立てることができました。また、定期的に職員面談を実施し、職員間の人間関係や介助等の技術的な悩み等の課題解決に取り組むことで、働きやすい環境づくりに努めました。(4-(3))
- (9) 介助時や食事の場面等、多様な場面を想定した危険予知トレーニングを実施し、入所者の事故防止につなげることができました。また、日々の声かけについて、一言一句を取り上げ、不適切ではないか、チームで再確認することで接遇面の向上に努めました。(5-(3)オ)
- (10) 内部研修や各種会議、委員会の場合において、参加職員の発言機会の確保に努めました。挙げた意見の具現化に向けてチームで取り組むことで、職員間の一体感が生まれ、職場環境の活性化につなげることができました。(5-(3)キ)

事業運営

1 利用状況（定員20名、通年営業）

- | | | | |
|------------|-------|----------|----------|
| (1) 平均利用者数 | 7.2名 | (前年度 ー) | 令和4年6月開設 |
| (2) 稼働率 | 36.0% | (前年度 ー) | 同上 |
| (3) 平均介護度 | 2.28 | (前年度 ー) | 同上 |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|----|-------------------|
| (1) 行事関係 | 4回 | (秋祭り、ビアガーデン、花火大会) |
| (2) 外出支援 | 0回 | |
| (3) 食事関係 | 1回 | (弥生御膳) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|------------------------------|
| (1) 外部研修 | 11回 | 延べ人数27名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | (感染者発生シミュレーション、事故防止、事業方針説明会) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|--------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 163回 | (運例連絡会議、感染対策委員会、事故防止委員会) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 25回 | (緊急感染対策会議、緊急事故検討会議) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) IT委員会を開催し、新しい介護記録システムの運用について、常日頃の疑問を職員間で共有し、一つ一つ問題解決に取り組みました。また、介護記録システムのマニュアルを作成し、職員間で共有を図ることで、記録業務の標準化に取り組みました。(1-(1))
- (2) 開所後、入所業務を推進し、安定した収入基盤の確保に努めました。稼働率は低調な結果となりましたが、多様な経費について収入の状況に合わせて、節減に努め、優先順位の高いものから執行する等、適正な収支のバランス確保に努めました。(1-(3))
- (3) 利用者や家族とのコミュニケーションや、担当者会議を通して家族から聞き取った嗜好や生活歴等の情報を会議で発信し、利用者本位のサービス提供に努めました。また、ユニット会議等で処遇について話し合い、心身の状態に応じた細やかなサービス提供を行いました。(2-(1))
- (4) 定例の委員会に加えて、事故や感染について臨時で検討会を開催し迅速な対応を行うことで、安心安全な生活環境づくりに努めました。また、介護技術標準化のため、各アセッサー職員がチェックリストに基づいて指導及び評価を行い、他職員と共有しながらチームで育成をすることで統一した教育体制を整えました。(2-(3))
- (5) 定期的に地区自治会と会合を設け、地域交流について協議を行いました。その中で、地区自治会の方を施設行事へ招き、実際に、施設の催しを見て感じていただくことで、地域との関わり方について意見を交わし、目指す地域に根差した施設運営の一助を担うことができました。(3-(1))
- (6) 施設のスローガンを全職員の意見を聞いて作成し、業務の行動規範とすることができました。また、マニュアルの見直しを行うことにより、業務の改善につなげ良質なサービスが継続的に提供できるように努めました。(4-(1))
- (7) 新任職員へはチューター職員のみならず副主任を含めたチームで丁寧にフォローを行うことで、新人指導に役立てることができました。また、定期的に職員面談を実施し、職員間の人間関係や介助等の技術的な悩み等の課題解決に取り組むことで、働きやすい環境づくりに努めました。(4-(3))
- (8) 介助時や食事の場面等、多様な場面を想定した危険予知トレーニングを実施し、利用者の事故防止につなげることができました。また、日々の声かけについて、一言一句を取り上げ、不適切ではないか、チームで再確認することで接遇面の向上に努めました。(5-(3)㌵)
- (9) 内部研修や各種会議、委員会の場合において、参加職員の発言機会の確保に努めました。挙げた意見の具現化に向けてチームで取り組むことで、職員間の一体感が生まれ、職場環境の活性化につなげることができました。(5-(3)キ)

事業運営

1 ケアプラン作成状況			
(1) 作成数	2, 778名	(前年度	2, 876名)
(2) 予防委託件数	592名	(前年度	599名)
(3) 平均介護度	1.94	(前年度	1.96)
2 相談受付状況			
(1) 全体	134名	(前年度	134名)
(2) 地区別			
ア 清須市	58名	(前年度	81名)
イ 北名古屋市	43名	(前年度	42名)
ウ 豊山町	2名	(前年度	7名)
エ その他	6名	(前年度	4名)
3 新規契約・契約終了数			
(1) 新規契約数	83名	(前年度	48名)
(2) 契約終了数	68名	(前年度	34名)
4 認定調査請求数	120名	(前年度	122名)
5 職員研修			
(1) 外部研修	42回	延べ人数	49名
(2) 内部研修	8回	(事例検討、法改正について、運転適性検査)	
6 各種会議・委員会			
(1) 各種会議	52回	(定例会議)	
(2) 臨時会議	0回		

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 利用者の立場になり様々な在宅サービスを提案し、尊厳を持って暮らせる地域となるように努めました。会議では、次年度新設の居宅事業所の検討を行い、より一層の地域に根差した意識を持ち議論を行いました。(1-(1))
- (2) コロナウイルス感染症の流行の中、要支援者、介護者の要望が増えたことも有り、新規契約を積極的に受けることで安定した予算の執行に務めました。また、さまざまな加算の取得を行いました。(1-(3))
- (3) 日頃から新たな情報に敏感になり、積極的に見学等を行いました。その新たな情報を踏まえ、利用者が望む暮らしを支えるためのフォーマルサービス、インフォーマルサービスを提案することに務めました。(2-(1))
- (4) 感染症予防対策を徹底し、訪問を行いました。傾聴の中で聞き取った意向を形にするため、各事業所との連携を行い、満足度を高めるための支援計画書の作成に務めました。(2-(3))
- (5) 地域ケア会議に参加し困難事例の検討に関りました。事例を提出し、検討の中から解決の糸口を見つける努力をしました。また、事例のその後を担当することもあり、積極的に地域との協働に務めました。(3-(1))
- (6) システムの更新により、請求業務等の周知、見直しを行うことができました。また、新たな職員の参加により業務内容の再確認ができました。(4-(1))
- (7) 休暇取得を積極的に推奨し、働きやすい環境づくりに努めました。家庭の充実を図るため、安定した無理のない業務の内容を心掛けました。また、上司、同僚の間の壁を取り、気安く会話ができる雰囲気づくりに努めました。(4-(3))
- (8) 不安を抱えている利用者、家族に対して時間を問わず、早急な答えを求めず、傾聴することに務めました。(5-(3)㌦)
- (9) 職場内でのコミュニケーションを推奨し、会話を絶やさないことで、お互いの情報を共有し業務につながることができました。また、さまざまな相談についても、真摯に向き合い傾聴する姿勢を持つことで、お互いの信頼関係を向上させることにつなげました。(5-(3)㌦)

事業運営

1 入所状況（定員50名、通年営業）

- | | | |
|--------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 49.8名 | （前年度 49.9名） |
| (2) 稼働率 | 99.5% | （前年度 99.9%） |
| (3) 平均障害支援区分 | 5.34 | （前年度 5.27） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------|
| (1) 行事関係 | 10回 | （夏まつり、クリスマス会等） |
| (2) 外出支援 | 27回 | （ドライブ） |
| (3) 食事関係 | 64回 | （ご当地メニュー、行事食） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 外部研修 | 15回 | 延べ人数22名 |
| (2) 内部研修 | 27回 | （新人研修、支援研修、全体研修等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-----------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 192回 | （運営会議、ユニット会議、日活調整会議等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 0回 | |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 嘱託職員やパート職員の確保に努めるとともに、支援体制及び内容について役職者会議や運営会議において検討を行いました。(1-(1))
- (2) 入退所時は迅速に調整し円滑に受け入れ、稼働率の向上に努めました。(1-(3))
- (3) 入所者の人権を尊重し、一人ひとりの人権に配慮した安全で安心できるサービスの提供に努めました。虐待防止委員会を設置し、虐待防止及び人権擁護について職員の意識向上を図りました。(2-(1))
- (4) 新型コロナウイルスの影響により、ボランティアの受け入れは中止としました。(2-(2))
- (5) 季節感のあるバラエティに富んだ献立を工夫し、豊かな食生活となるよう努めました。食への関心を高めるために、全国のご当地メニューや行事食を献立に取り入れました。(2-(3))
- (6) 新型コロナウイルスの影響により、外出は禁止となりましたが、感染者が少ない時期に近隣のドライブやコンビニ外出を少人数で実施しました。(2-(3))
- (7) 外部研修への派遣や経験、階層別、テーマ別の内部研修を開催し、専門的な知識や技術の習得に努め、実践力のある職員を育成し、福祉サービスの向上を目指しました。(2-(3))
- (8) 防災環境委員会を設置し、環境整備や設備点検に取り組みました。また、地震や水害に備え防災避難体制の整備を図りました。(2-(4))
- (9) 年度途中から西春日井地域福祉の店への出店を再開しました。喫茶ギャラリーこもればは、感染対策を行いながら営業しました。(3-(1))
- (10) 新型コロナウイルスの影響により、「杜の記念祭」は中止としました。(3-(2))
- (11) 感染対策を行いながら、地域の飲食店やコンビニエンスストア等を利用しました。(3-(2))
- (12) ユニットごとに個人ケース検討を定期的に行いました。(4-(1))
- (13) 業務内容を見直し仕事の効率化を図りながら、時間外労働の縮減や有給休暇の取得に努めました。(4-(3))
- (14) 健康委員会及び感染症対策委員会を設置し、入所者の健康状態の把握や職員の感染症に対する意識の向上に努めました。(5-(1))
- (15) 新型コロナウイルスの影響により、中学生の福祉体験学習等や小学生の福祉体験教室は中止となりました。また、地域住民を対象とした啓発行事等も中止となりました。(5-(3)リ)
- (16) 会議等において職員に対してコスト意識を持つよう周知を図り、節約や節電を積極的に行い、経費の削減に努めました。(5-(3)ク)

事業運営

1 利用状況（定員10名、通年営業）

- | | | |
|--------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 5.0名 | （前年度 6.3名） |
| (2) 稼働率 | 50.2% | （前年度 63.2%） |
| (3) 平均障害支援区分 | 4.98 | （前年度 5.07） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------|
| (1) 行事関係 | 10回 | （夏まつり、クリスマス会等） |
| (2) 外出支援 | 27回 | （ドライブ） |
| (3) 食事関係 | 64回 | （ご当地メニュー、行事食） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 外部研修 | 15回 | 延べ人数22名 |
| (2) 内部研修 | 27回 | （新人研修、支援研修、全体研修等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-----------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 192回 | （運営会議、ユニット会議、日活調整会議等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 0回 | |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 嘱託職員やパート職員の確保に努めるとともに、支援体制及び内容について役職者会議や運営会議において検討を行いました。(1-(1))
- (2) 緊急入所は効率的な利用調整を行いながら、優先して受け入れました。(1-(3))
- (3) 入退所を迅速に調整し、円滑な受け入れに努めました。(1-(3))
- (4) 利用者の人権を尊重し、一人ひとりの人権に配慮した安全で安心できるサービスの提供に努めました。虐待防止委員会を設置し、虐待防止及び人権擁護について職員の意識向上を図りました。(2-(1))
- (5) 利用中においては、個々の希望に合った活動に参加してもらい、休日においても余暇を楽しく過ごすことができるように努めました。(2-(3))
- (6) 利用者の個性や障害特性に合わせ、その人らしい生き方の自己実現のための支援に努めました。新型コロナウイルスの影響により、外部研修は最小限としました。経験、階層別、テーマ別の内部研修を開催し、専門的な知識や技術の向上を図りました。(2-(3))
- (7) 利用に際しては、家庭を離れる不安に配慮し、安全で安心できる生活環境を提供しました。(2-(4))
- (8) 利用者の健康維持増進を図るために、健康委員会を設置し、職員の健康に関する意識の向上に努めました。また、感染症対策委員会を設置し、日常的に清掃や手洗い、消毒、換気、マスクの着用等を徹底し、感染症等の予防に努めました。(2-(4))
- (9) 安心して地域で生活できるよう、グループホームと連携し、緊急入所や地元の利用希望者を優先して受け入れました。(3-(1))
- (10) 地域関係者及び相談支援センターと連携し、サービスを必要としている地域の方々の利用の充実を図りました。(3-(1))
- (11) 懸案ケースについては、サービス担当者会議等に参加し、地域関係者及び相談支援センターとの連携を図りました。(3-(1))
- (12) 個人ケース検討を定期的に行い、その人にあった支援を職員全員で共有しました。(4-(1))
- (13) 仕事の効率化を図りながら、時間外労働の縮減や有給休暇の取得に努め、人材の定着を図りました。(4-(3))
- (14) 会議等において職員に対してコスト意識を持つよう周知を図り、節約や節電を積極的に行い、経費の削減に努めました。(5-(3)㌿)

事業運営

- 1 利用状況（定員68名、月～土営業、日曜及年末年始6日は休業）
 - (1) 平均利用者数 64.8名（前年度 66.2名）
 - (2) 稼働率 95.3%（前年度 97.0%）
 - (3) 平均障害支援区分 5.25（前年度 5.19）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 10回（夏まつり、クリスマス会等）
 - (2) 外出支援 27回（ドライブ）
 - (3) 食事関係 64回（ご当地メニュー、行事食）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 15回 延べ人数22名
 - (2) 内部研修 27回（新人研修、支援研修、全体研修等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 192回（運営会議、ユニット会議、日活調整会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 0回

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 効率的な利用調整を行い、新規利用や利用回数増に努めました。通所主任者会議及び日中活動調整会議を開催し、各グループ活動の調整を行い、円滑な運営に努めました。(1-(3))
- (2) 利用者のニーズに即した活動となるようプログラムや実施方法を工夫することで、計画相談と連動しながら本人のニーズに即した個別支援計画を作成しました。また、新型コロナウイルスの感染防止対策を取りながら、委託業者への納品や作業材料の購入、近隣への外出等を段階的に再開し、社会参加活動に努めました。(2-(1))
- (3) 新型コロナウイルスの影響により、ボランティアの受け入れは中止としました。(2-(2))
- (4) 利用者の健康維持増進を図るために、健康委員会を設置し、職員の健康に関する意識の向上を図りました。また、感染症対策委員会を設置し、日常的に清掃や手洗い、消毒、換気、マスクの着用等を徹底し、感染症等の予防に努めました。(2-(4))
- (5) 新型コロナウイルスの影響により、喫茶ギャラリーこもれびにおける利用者の接客や清掃等の活動は中止となりました。(3-(1))
- (6) 新型コロナウイルスの影響により、地域との交流を図る行事は中止となりました。(3-(1))
- (7) 新型コロナウイルスの影響により、外出は禁止となりましたが、感染者が少ない時期に近隣のドライブやコンビニ外出を少人数で実施しました。(3-(1))
- (8) 地域の施設理解を深めるため、施設情報の発信に努めました。施設生活がより理解されるようフェイスブック等の配信や施設広報誌「杜のたより」を発行し、関係者に配布しました。(3-(2))
- (9) 年度途中から西春日井地域福祉の店への出店を再開しました。喫茶ギャラリーこもれびは、感染対策を行いながら営業し、障害者福祉だけでなく高齢者福祉の情報発信に努めました。(3-(2))
- (10) 新型コロナウイルスの影響により、中学生の福祉体験学習等や小学生の福祉体験教室は中止となりました。また、地域住民を対象とした啓発行事等も中止となりました。(4-(2))
- (11) 利用者の個性や障害特性に合わせ、その人らしい生き方の自己実現のための支援に努めました。新型コロナウイルスの影響により、外部研修は最小限としました。経験、階層別、テーマ別の内部研修を開催し、専門的な知識や技術の向上を図りました。(4-(4))
- (12) 利用者が安心して穏やかに暮らすことができるよう、安全で快適な環境づくりに努めました。防災環境委員会を設置し、環境整備に取り組むとともに、地震や水害に備え防災避難体制の整備に努めました。(5-(1))
- (13) 会議等において職員に対してコスト意識を持つよう周知を図り、節約や節電を積極的に行い、経費の削減に努めました。(5-(3)ク)

事業運営

1 利用状況（定員20名、月～土営業、日曜及び年末年始6日は休業）

- | | | | |
|------------|------|------|-------|
| (1) 平均利用者数 | 0.1名 | （前年度 | 0.2名） |
| (2) 稼働率 | 0.4% | （前年度 | 0.9%） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 平日の利用を促すことにより、稼働率の向上に努めました。（1-(3)）
- (2) 利用者一人ひとりの個性や障害特性に合わせ、その人らしい生き方、自己実現の支援に努めました。その人に適した創作的活動や生産的活動を提供し、生活意欲の向上を図りました。（2-(1)）
- (3) 生活介護を利用できない障害者に、日中活動の場を提供することで、生活に楽しみと潤いをもち安心して地域で暮らせるよう努めました。（2-(1)）
- (4) 複数のサービスを利用しているケースや支援困難なケースについては、相談支援センター及び地域関係者等と連携を図りました。（3-(1)）
- (5) 新型コロナウイルスの影響により、外部研修は最小限としました。経験、階層別、テーマ別の内部研修を開催し、専門的な知識や技術の向上を図りました。（4-(4)）

事業運営

1 利用状況（定員5名、月～土営業、日曜及び年末年始6日は休業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 1.6名 | （前年度 1.8名） |
| (2) 稼働率 | 31.2% | （前年度 35.1%） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 平日の利用を促すことにより、稼働率の向上に努めました。(1-(3))
- (2) 一時的な見守り支援を行うだけでなく、その人に適した活動を提供し、生活意欲の向上を図りました。(2-(1))
- (3) 一時的に支援が必要な障害者を預かり見守り等の支援を行うことで、家族の介護負担を軽減し、安心して地域で暮らせるよう努めました。(3-(1))
- (4) 関係機関との連携、協働を図るため、複数のサービスを利用しているケースや支援困難なケースについては、相談支援センター及び地域関係者等と連携を図りました。(3-(1))
- (5) 新型コロナウイルスの影響により、外部研修は最小限としました。経験、階層別、テーマ別の内部研修を開催し、専門的な知識や技術の向上を図りました。(4-(4))

事業運営

1 利用状況（定員なし、通年営業、年末年始6日を除く）

(1) ケアプラン	8件	(前年度	3件)
(2) 障害支援区分認定調査	30件	(前年度	43件)
(3) 電話相談	918件	(前年度	782件)
(4) 来所相談	411件	(前年度	358件)
(5) 訪問相談	597件	(前年度	609件)
(6) 計画相談	593件	(前年度	641件)
総計	2,557件	(前年度	2,436件)

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 圏域の地域生活支援拠点の設置に向け2市1町と協議し、拠点の業務内容の精査、予算確保、人員の確保に努めました。(1-(1))
- (2) 特定相談支援について、基幹相談支援事業所や他の事業所との分担等に関して2市1町と協議しながら、圏域における当事業所の位置付けを明確にした事業を推進しました。(1-(3))
- (3) 特定相談支援及び障害児相談支援が行う計画相談について、利用者や家族の意思及び人格を尊重し、常に利用者や家族の意向を踏まえたサービス等利用計画の策定、モニタリングによる検証等を行い、サービスの質の確保を図りました。(2-(1))
- (4) 相談支援事業で行う、相談記録、サービス等利用計画、モニタリング報告書、会議等の記録等について、業務の適正化や効率化に向けた事務の見直しを図りました。(2-(3))
- (5) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会の事務局として運営会議や部会等を開催し、圏域内の事業所等と連携を図り、地域の障害児・者、家族が必要としているサービスの把握や、行政への提言等を行いました。(3-(1))
- (6) 愛知県相談支援体制整備事業である地域アドバイザー業務を受託し、障害福祉関係の地域情報や国の施策の動向等を圏域内外の関係者と共有し、圏域の障害者支援協議会の活性化や相談支援体制の強化等に努めました。(3-(1))
- (7) 2市1町から受託する地域生活支援事業として、情報誌「杜の風だより」を適宜発行し、地域の事業所に対して情報の共有を図りました。(3-(1))
- (8) 新型コロナウイルスの影響により、地域交流の場として交流ホールや多目的室の地域への開放は中止となりました。(3-(2))
- (9) 年度の途中から西春日井地域福祉の店を再開し、相談支援等を含めた情報を発信しました。(3-(2))
- (10) 地域支援部門会議で、業務の進捗状況の確認、事例検討等を行い、職員の質の向上を図りました。(4-(1))
- (11) 社会福祉士等の資格取得や強度行動障害者支援者養成研修等の受講を促進し、職員のスキルアップを図りました。(4-(4))
- (12) 感染症や災害が発生した場合でも、安定的、継続的に相談業務等が行えるよう、担当以外の利用者の概要を地域支援部門会議で把握するとともに、利用者のフェイスシートや名簿の整理を行いました。(5-(1))

事業運営

○居宅介護事業

1 利用状況（定員なし、通年営業、年末年始6日を除く）

- (1) 利用者数 204名（前年度 181名）
(2) 延べ利用時間 1,319.5時間（前年度 1,262.0時間）

○行動援護事業

1 利用状況（定員なし、通年営業、年末年始6日を除く）

- (1) 利用者数 74名（前年度 58名）
(2) 延べ利用時間 314.0時間（前年度 263.5時間）

○重度訪問介護事業

1 利用状況（定員なし、通年営業、年末年始6日を除く）

- (1) 利用者数 12名（前年度 12名）
(2) 延べ利用時間 440.0時間（前年度 403.5時間）

○移動支援事業

1 利用状況（定員なし、通年営業、年末年始6日を除く）

- (1) 利用者数 335名（前年度 309名）
(2) 延べ利用時間 1,492.0時間（前年度 1,392.0時間）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) サービス内容の工夫や変更を提案することにより、新規の利用希望者を受け入れ、収入基盤が安定するように努めました。(1-(3))
- (2) 利用者のニーズを的確に把握し、個別支援計画を作成しました。公共交通機関の利用や遊園地、スポーツジム等の利用は新型コロナウイルス感染予防のため見合わせました。(2-(1))
- (3) サービスを利用された方から聞き取りを行い、利用者のサービスへのニーズや満足度を把握できるよう努めました。(2-(3))
- (4) サービス提供記録、個別支援計画等を職員間で確認し、常に日常業務の見直しに努めました。(2-(3))
- (5) 相談支援センター及び地域関係者との連携を図り、複数のサービスを利用しているケースや懸案ケースについて緊密に連携しました。(3-(1))
- (6) 施設広報誌や情報誌への掲載など、居宅介護事業のPR方法を検討しました。(3-(2))
- (7) 休日、同性介護、長時間の移動支援等の利用希望に応えられるよう、嘱託職員及びパート職員の確保に努めましたが、ヘルパーの新規採用には至りませんでした。(4-(2))
- (8) 障害者支援の知識及び技術の習得のために、ヘルパー会議や地域支援部門会議においてケース検討等を行うことにより、職員のスキルアップに努めました。(4-(4))
- (9) 感染症や災害が発生した場合でも、安定的、継続的にヘルパー業務等が行えるよう、ヘルパー会議や記録等の確認をすることで利用者の概要を把握するとともに、利用者のフェイスシートや名簿の整理を行いました。(5-(1))

事業運営

- 1 利用状況（定員10名（体験1名含）、通年営業）
 - (1) 平均利用者数 9.2名（前年度 8.8名）
 - (2) 稼働率 92.5%（前年度 88.5%）
 - (3) 平均障害支援区分 4.78（前年度 4.72）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 3回（夏祭り、クリスマス、お疲れ様会）
 - (2) 外出支援 13回（ドライブ、買物）
 - (3) 食事関係 13回（お楽しみ会、喫茶ギャラリーこもれび）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 9回 延べ人数9名
 - (2) 内部研修 11回（事例検討、虐待防止、感染症予防等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 27回（こだち会議、感染症対策委員会、虐待防止委員会）
 - (2) 臨時会議・委員会 0回

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 日常業務で使用する文書の活用を工夫して連絡不備を減らすとともに、夜間勤務者の業務手順を見直すことで効率化を図りました。(1-(1))
- (2) 体験利用希望者を積極的に受け入れ、契約者は増えてきましたが、新型コロナウイルス等感染症の拡大の影響で稼働目標は達成できませんでした。(1-(3))
- (3) 虐待防止委員会で報道事例などを活用し、人権に配慮したサービスについて検討し、その結果を全職員周知し、虐待防止及び人権擁護について職員の意識向上を図りました。(2-(1))
- (4) 新型コロナウイルス等感染症の拡大により、訪問理美容以外のボランティア等を受け入れることができませんでした。(2-(2))
- (5) 利用者の希望や障害特性に応じて作成した個別支援計画に沿って支援を行い、モニタリングで成果を確認しながら、本人のニーズに即したサービスが提供できるよう努めました。(2-(3))
- (6) 感染対策を取りながら、夏祭りやクリスマス会等の施設内行事を開催し、余暇の充実に努めました。ドライブ以外の外出支援は、買物支援を実施しました。(2-(3))
- (7) 火災や巨大地震を想定した避難訓練や消火訓練を実施しました。避難先の鴨田小学校まで利用者を誘導し、実際の避難経路の確認を行い、職員の防災意識の向上を図りました。(2-(4))
- (8) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会運営会議の日中サービス支援型グループホームの評価の場に参加して事業報告を行い、問題なしとの評価を受けました。(3-(1))
- (9) 新型コロナウイルス等感染症の拡大により、地域との交流行事は感染予防のため実施できませんでした。(3-(2))
- (10) 外部研修では、サービス管理責任者研修や強度行動障害支援者養成研修に参加し必要な知識や資格を取得しました。内部研修では、福祉の杜の事例検討に参加し、支援技術の向上を図りました。虐待防止や感染症の研修を定期的実施し、職員の意識の向上を図りました。(4-(1))
- (11) 話しやすい雰囲気や円滑なコミュニケーションを心がけ、私的な悩みも相談できるような職場づくりを進めました。(4-(3))
- (12) 感染症対策委員会を開催し、感染防止に取り組んできましたが、年末に利用者が新型コロナウイルスに感染し、複数の感染者が発生しました。しかし、委員会で福祉の杜のクラスター発生時の対応を学んでいたため、戸惑うことなく対応し、継続したサービスの提供を行うことができました。(5-(1))
- (13) グループホームで日中を過ごす利用者のために、運動や創作活動、園芸等の活動を提供しました。中庭で育てた野菜を収穫、調理して食卓に並べ、大きな喜びとなりました。また、福祉の杜の日中サービスも利用し、グループホーム以外の人との交流を図りました。(5-(3)ウ)
- (14) 体験利用者に個別支援計画を作成し、将来グループホームでの生活に円滑に移行できるように支援を行いました。(5-(3)ウ)

事業運営

- 1 利用状況（定員1名、通年営業）
 - (1) 平均利用者数 0名（前年度 0.1名）
 - (2) 稼働率 0%（前年度 4.6%）
 - (3) 平均障害支援区分 —（前年度 5.00）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 3回（夏祭り、クリスマス、お疲れ様会）
 - (2) 外出支援 13回（ドライブ、買物）
 - (3) 食事関係 13回（お楽しみ会、喫茶ギャラリーこもれび）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 9回 延べ人数9名
 - (2) 内部研修 11回（事例検討、虐待防止、感染症予防等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 27回（こだち会議、感染症対策委員会、虐待防止委員会）
 - (2) 臨時会議・委員会 0回

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 日常業務で使用する文書の活用を工夫して連絡不備を減らすとともに、夜間勤務者の業務手順を見直すことで効率化を図りました。(1-(1))
- (2) 利用の打診がありましたが、相談支援事業所と受け入れの協議をした結果、福祉の杜での受け入れとなり、今年度の利用はありませんでした。(1-(3))
- (3) 虐待防止委員会で報道事例などを活用し、人権に配慮したサービスについて検討し、その結果を全職員周知し、虐待防止及び人権擁護について職員の意識向上を図りました。(2-(1))
- (4) 利用がなく、サービスは提供していません。(2-(3))
- (5) 利用はありませんでしたが、体験利用者が短期入所を利用する際に、円滑に受け入れられるよう情報の整理を行いました。(2-(4))
- (6) 利用がなく、関係機関との連携は行っていません。(3-(1))
- (7) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会運営会議の日中サービス支援型グループホームの評価の場に参加して事業報告を行い、問題なしとの評価を受けました。(3-(1))
- (8) 外部研修では、サービス管理責任者研修や強度行動障害支援者養成研修に参加し必要な知識や資格を取得しました。内部研修では、福祉の杜の事例検討に参加し、支援技術の向上を図りました。虐待防止や感染症の研修を定期的実施し、職員の意識の向上を図りました。(4-(1))
- (9) 話しやすい雰囲気や円滑なコミュニケーションを心がけ、私的な悩みも相談できるような職場づくりを進めました。(4-(3))
- (10) 感染症対策委員会を開催し、感染防止に取り組んできましたが、年末に利用者が新型コロナウイルスに感染し、複数の感染者が発生しました。しかし、委員会で福祉の杜のクラスター発生時の対応を学んでいたため、戸惑うことなく対応し、継続したサービスの提供を行うことができました。(5-(1))
- (11) 利用の打診があった事例は、関係機関と協議しましたが利用となりませんでした。(5-(3)ウ)